

生活支援教室

高次脳機能障害の当事者のためのグループプログラムのご案内です

高次脳機能障害は自己モニタリングの障害とも言われており、自己の状態への「気づき」を促進することが、障害で起こる困難への対処方法の獲得につながります。「気づき」の促しとして、他者の行動を通して自分の行動を振り返ることが出来るグループ活動が有効であると言われています。

生活支援教室は、自身の障害について理解を深め、家庭生活の自立や社会参加に向けて必要な代替手段を獲得することを目標としています。

予測的気づき

体験的気づき

知的気づき

自己認識の階層

対象者 高次脳機能障害により日常生活や社会生活に支障があり、一定期間グループに参加することで効果が見込まれる方（下段の利用の流れをご覧ください）

場 所 石川県リハビリテーションセンター

期 日 毎週水曜日 9時30分～12時00分（1クール6カ月）

スタッフ 保健師、心理職、作業療法士 など

参加
無料

● 一日のスケジュールと活動内容

9:30～	9:40～	10:00～	10:30～		11:10～	～ 12:00
▶開始 体調 チェック 血圧測定	オリエン テーション 教室の目的や ルールを確認 し、意識づけ を行います。	展望的記憶訓練 (課題を思い出して実 行する練習) 1週間のトピックス (発表・聞きとり、メ モの練習) 課題遂行のための工夫 や代替手段や使う練習 をします。	学習 (高次脳機能障害につい て、生活習慣、コミュニ ケーションなど) テーマに沿って、自身の 体験や情報を共有したり、 議論したりすることで、 自己認識を深めます。	休憩	認知課題 個別課題を実施し、解決 方法や工夫点を話し合い 実践することで、自分の 障害への気づきを促し、 代替手段の効果を体験・ 習得します。	◀ 終了 振り返り 後片付け 終礼

● 生活支援教室利用の流れ

担当されている患者さんについて、支援者の方が生活支援教室の利用を薦めたいと考えられた場合には、まずはお電話でご相談ください。

相談受付
☎ 076-266-2188

本人・家族
との面談

教室利用の
検討

教室利用の
開始

受傷されてからの経過や生活状況などをお聞きます。その際に医療情報をご準備いただくこともあります。
※ご本人の了承の上で、その他の支援機関から情報をいただくことがあります。

ご本人・ご家族のニーズや支援者からの情報をもとに、生活支援教室が支援として適当かどうかを検討します。教室に参加されない場合でも、個別での支援は継続できます。

「生活支援教室」を利用した一例を紹介いたします



障害への認識が深まり、求職条件を変更し障害者雇用での新規就労となった例（50代・男性）

相談内容



家族からの相談

長年勤めた会社を病後に退職し、求職活動しているがなかなか就職できない。経済的にも不安。

評価

情報収集・面談・神経心理学的検査など

支援の方針と課題

- ・検査結果などから、周囲の理解があれば就労できそう（一般就労の障害者雇用や就労継続A型など）
- ・病前と同条件での求職活動をしているが、就労時にどんな困難があるか、必要な代替手段や環境調整などが今はわからない

目標

『 自分について知ること 』（本人・家族も支援者も）

介入

①生活支援教室での取り組み

作業課題

- ・認知課題を通して代替手段を構築
- ・スケジュール管理等

グループの力

- ・他者との体験共有
- ・代替手段の効果の共有
- ・安心感

教室利用で見た課題

- ・日時の勘違いによる無断欠席・遅刻（その背後にある生活リズムの乱れ）
- ・記憶課題のミス

個別支援

- ・教室での課題の振り返り
- ・目標や課題の確認

②個別対応：家族支援 etc…

変化

- ・他の参加者が代替手段を使う様子を見て、自分なりの方法を考え実行する
- ・代替手段を使った結果、課題のミスが少なくなる
- ・障害者手帳を使った雇用の求職活動もし始める

転帰

障害者雇用で新規就労となる

教室の利用は終了、個別での職場訪問等の支援は継続中